藤沢市福祉団体連絡会主催防災セミナー
「災害に負けない町づくりをめざして」にパネラー参加

日時：2011年12月24日（土）13：45～16：45
場所：藤沢市民会館小ホール:

防災講演会や報告会の殆どは健常者が中心に開催した内容であり、災害時要援護者の立場から開催された意義は大変重要であり、今一番求められている状況を物語っている。第１部の講演では災害ボランティアの特定非営利活動法人レスキューストックヤード事務局浦野さんの内容は東日本大震災で要援護者の方々がどのような状況に合われているかを実例を上げて語られました。特に避難所生活の仮設トイレは過酷な状況で健常者でも厳しい環境であり、仮設住宅に入居しても健常者目線の住宅環境は余りにも思いやりの無い施策が語られ、介護専用の仮設住宅が何故出来ないのかと訴えておられました。やはりコミュニティが何よりも大事で自治会・町内会の中でお互いに顔を合わせる機会を設けて繋がりを増やし、お互いに支え合える関係が長い復興生活には不可欠であり、普段からの備えと顔の見える関係、そして地域力と受援力の大切さを実感させられる講演でした。

第２部では災害時要援護者の立場から見た災害に負けない町づくりについて様々な関係の方々から意見が述べられました。FSVからは事務局長の水島さんが災害救援ボランティアネットワークの果たす役割や災害時に支援をいかに円滑に受け入れボランティア活動の力を引き出す受援力の必要性を訴えました。

地域防災活動で最も求められている「災害時要援護者をどう助けるか」が個人情報保護など様々な問題で苦労している時に一筋の光明を見た思いの防災セミナーでした。今後もこの様な災害弱者に目を向けた講演会等をお願いします。

災害ボランティア養成講座入門編の参加者募集

日　時：平成24年2月19日（日）午前9時～午後5時
場　所：鵠沼市民センター・公民館　　第３談話室
所在地　藤沢市鵠沼海岸２-10-34
電　話　0466-33-2001(市民センター)
0466-33-2002(公民館)
交　通　小田急線「鵠沼海岸駅」下車徒歩2分

受講料：一般500円(資料代含む)　　会員300円
募集定員：50名
応募方法：電話、ファックスにて
藤沢市社会福祉協議会　ふじさわボランティアセンター
電話　0466-26-9863　　FAX　0466-26-6978
※今回の特徴：本来は2日間講座の規定ですが参加しやすい1日のみの講座です。
実習は市の総合防災訓練等でボランティアセンター設立訓練で行います

災害情報コーディネーター養成講座参加者募集

日　時：平成24年3月17日（土）午前10時～午後17時30分
場　所：藤沢市市民活動推進センター　会議室A
募　集：20名（定員になり次第締め切り）
資料代：300円
持ち物：GPS付き携帯電話をご持参ください
申込み：藤沢市市民活動推進センター
災害情報コーディネーター研修担当
〒251-0052　藤沢市藤沢1031　小島ビル２階
fax　0466ー54ー4516
e-mail:f-npoc@shonanfujisawa.com
①氏名　②住所　③電話番号　④メールアドレス　⑤昼食予約の有無
を明記の上、上記ファックスまたはEメールでご連絡ください。

※昼食を希望される場合は、お弁当とお飲み物を700円にて用意いたします。

編集後記

災害時要援護者をどう救出するかの問題は、多くの町内会・自治会では救出を申請する方は東日本大震災の影響で増えているが、高齢化が進んで昼間に救出出来る若い人がいない。また津波で救出に関わった消防団員や民生委員の多くの方が亡くなっており、津波発生時にはどう対処するのか。
東日本大震災はあらゆる所で新たな問題を提起している。　　（T.O）

FSVネットニュース
発行者　森井　康夫
発行所　藤沢災害救援ボランティアネットワーク
〒251-0051　藤沢市白旗4ー9ー１～４F号
☎0466ー84ー1762　fax0466ー84ー1762
E-mail:fsvnet@arts-k.com

第12号

FSVnetニュース

連絡先
〒251-0051藤沢市白旗4-9-1～4F
TEL0466－84－1762
fax0466－81－2816
E-mail:fsvnet@arts-k.com

発行／NPO法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク　　発行者／森井　康夫　　発行年月／２０１２年１月

藤沢市発ボランティアバスに参加した皆さん（大船渡仲港地区にて）

さらなる「災害に強いまち藤沢」を目指して

藤沢市総務部災害対策課
課長　　渡　邊　伸　二

ご家族揃って新しい年をお迎えされたことと存じます。昨年は、日本の災害史上最悪の大惨事となった東日本大震災。この大災害を将来にわたり決して忘れることなく、後世に伝えることが私たちの使命です。被災後10ヶ月が経過した被災地では、ふるさとで新年を迎えられない方々も多く、苦難の生活を強いられております。また、福島第一原発事故における放射性物質の飛散により他県にも被害がおよび、その対策に追われております。

被災地では、悲しみを耐え復興に向けて賢明に取り組まれております。私たち日本人の絆で、一日も早い復興に向けて一人ひとりができることを積極的に支援していきましょう。

自然災害は予知することはできません。

皆さんはいざという時に慌てず落ち着いた行動ができますか。「明日は我が身」の危機意識を持ち、いざという時に備えることが大切です。普段とは違う「強い地震を感じた時」には「津波が来る」と考え、まず近くの高い場所へ避難することです。そのため普段からどこへ逃げるか、自宅から近くの避難ビルまで何分で行けるか、頭で考えるだけでなく、実際に行動してください。その際、避難経路はどこを通って避難するのか、その避難経路は倒壊などで道路が寸断されるなど様々な危険箇所を想定し、安全な避難経路を複数考えておく必要があります。さらに地域で開催される防災訓練や防災講話などへ積極的に参加をしていただき、応急手当等を学び、体験してください。とっさの時に人は体験していないことはできません。体験し反復することで身体が自然と覚えていき、いざという時に役立つのです。生き延びるために、今からご自身ができることを始めましょう。一人ひとりの行動が減災に繋がります。「災害に強いまち藤沢」の構築に向けて皆様と共に推進してまいりますので、今年もご理解ご協力をお願いいたします。

受援力を高めよう！

＝藤沢市発のボランティアバスを派遣して＝

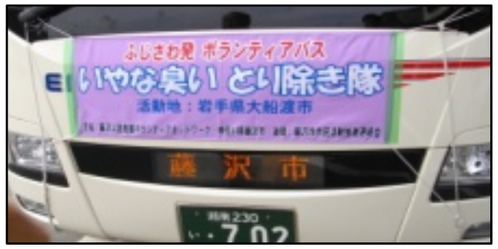
藤沢災害救援ボランティアネットワーク

代表　森　井　康　夫

謹んで新年を迎えられたことと思います。

昨年は３月１１日の東日本大震災以降、従来の活動意外に震災に関する多くの活動が加わり大変忙しい年となりましたが、皆様のご協力により多くの成果を上げることが出来ました。あらためてお礼申し上げます。

発災から1週間後につくば市災害ボランティアセンターからコーディネーター不足により派遣要請があり、私と水島事務局長が現地の状況把握と情報収集を兼ね地域ネットの方々と現地のボランティアセンターに行き混乱している現状を把握して来ました。その後藤沢でも被災者受け入れが決まり、一時避難所開設に伴う義援金の募金や支援物資の収集、駅前の街頭募金を行い、また県のボランティアネットによる「思い出探し隊」として大船渡へ行きました。その後、県武道館に避難している被災者をかながわ女性センターで受け入れることになり、ここでも支援をいたしました。そして何よりも大きな事業は市と共催でボランティアバス「いやな臭いとり除き隊」を仕立て、市民42名が7月3日～6日に大船渡市でボランティア活動を行なったことです。事前に現地調査とニーズ 把握のために6月15日、16日に陸前高田、大船渡の各役所、ボランティアセンターを訪ね、津波で流れ出した冷凍倉庫の魚が側溝等で腐敗し、ハエの発生と臭気に悩まされていることを知り、大船渡の水産加工会社前の側溝清掃を打ち合わせて帰って参りました。



藤沢市からのボランティアバスを知らせる垂れ幕

女性も一緒にホイールローダーにヘドロを積み込む

「いやな臭いとり除き隊」として現地で活動する上で大変助かったのは、まず私達のために水産会社の社長さんが簡易トイレを用意して下さったこと、昼食、休憩場所を津波避難場所となっている高台の幼稚園が提供して下さったこと。そして県の土木部が現地の建築土木会社に依頼し、事前に側溝の蓋を取り除いてあり、重量物を持ち上げるパワーシャベルとヘドロを積み込むホイールローダー、それを運搬して海へ捨てに行くトラックと安全に配慮した交通整理のガードマンを派遣して下さったこと、そして被災者である水産会社の従業員の方々も一緒に作業をしてくれました。従来でしたらトイレも自分達で確保し、全て手作業で重量物を取り除き、ヘドロを土嚢袋に詰め所定の場所まで運ぶのですが今回はさらったヘドロをホイールローダーに積み込むまでの作業のため、非常に効率良く進み400m程が大変きれいになりました。もし私達だけでやっていたら100mも出来なかったでしょう。

今回ボランティアセンターと行政が連携し地域の受援力を高めることがやってくるボランティアとの連携を高め復興を早めることを身をもって知った良い体験でした。

帰宅困難者徒歩訓練や情報コーディネータ養成講座、被災者支援など多くの事業を通して受援力を高める活動を今後ともよろしくお願いします。

＊　藤沢災害救援ボランティアネットワークの支援企業です　＊

神奈川県知事許可第955号
総合建築業
有限会社　**森井工務店**
〒251-0051藤沢 市白 幡4丁 目9番１～１F号
電話　０４６６（81）３３０３
０４６６（81）２８１６

一般建築金物
株式会社　伊　藤　屋
本　社　〒251-0052　藤沢市藤沢１－１－１５
TEL0466(26)3721(代)　fax0466(22)225
営業所　〒252-0815　藤沢市石川６－１８－５０
TEL0466(87)7800(代)　fax0466(87)7802

建築金物・建築資材・電動工具
ボールナット・釘・針金・砥石・刃物
家具・建築金物・シート・袋各種
仁　平
〒252-0815　藤沢市石川2-15-11
電話０４６６（８７）１５００(代)
FAX０４６６（８７）１５０２

災害情報員・情報コーディネーター養成講座開催される

日時：2011年9月23日10:00～17:00
場所：藤沢市市民活動推進センター

本来ならば前年の秋に初めて開催された講座の2回目を3月に開催する予定でしたが、3.11大震災の発生により9月に成ってしまいました。今回の大災害では様々な情報がめまぐるしく変化し、正確な情報が伝わらず命を落とした方が多くおられました。これには平常時から正確な情報を発信し、受信者もそれを返信する訓練を最悪の状況を踏まえやっておく必要があります。特に被災現場からの迅速で正確な情報が救出・救助活動には必須であり、平常時から災害情報ボランティアを育成すると共に信頼出来る情報として再配信出来る災害情報コーディネーターを要請しておく必要があります。正確な情報を集め広報することは大災害の混乱を収める重要な役を担っています。

講座では災害情報の基礎知識や市民レポーターの役割等の講義の後、各受講者が街中の模擬情報をGPS対応の携帯電話でeコミふじさわプラットホームに投稿し災害情報コーディネーターとして情報の分析・集約ワークショップを行いました。今回では新たに9名の方が受講され、合計21名の災害情報コーディネーターが誕生しています。

投稿用サイト「eコミふじさわ」のROUNDふじさわ

次回の養成講座では是非多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

絆を強めるファミリーウォーク
藤沢にて帰宅困難者徒歩訓練開催される

前回は首都圏統一として神奈川県下で一斉に実施され湘南地区として藤沢から平塚までのコースが選ばれましたが、今回は藤沢単独で県下一斉より1週間早い10月15日に開催されました。藤沢市役所を出発、ゴール地点として鵠沼農協前、伏見稲荷、観光会館前、江ノ電本社前、境川橋脇、市民会館にエイドステーションを設置して全長約11ｋｍ、また江ノ島水族館前まで７ｋｍのショートコースと２コースで実施されました。前日からの台風の影響で朝から強風と小雨混じりの天候に当初の参加者予想より少なかったが、106名の参加者がありスタッフ47名で運営いたしました。藤沢地区での単独開催は地域の災害救援ボランティアや自治会・町内会、市民団体、地域連合などが協力し合って出来た大きな意義のある訓練でした。また災害情報コーディネーター養成講座を受講した災害情報員・市民レポーターの訓練を兼ねたGPS付きの携帯電話を利用した投稿情報を観光会館前で集約し大画面に展示する情報システムの実証実験も行われました。スタートで参加者に十分な説明が出来なかったので投稿件数は少なかったが送受信ともに良好でした。今後。市民レポーターを養成することで、「eコミシステム」を活用した情報共有が可能であることが立証されました。

開会式を出発地点藤沢市役所にて

＊　藤沢災害救援ボランティアネットワークの支援企業です　＊

安心の関東運輸局認定第６２５号
トランクルームのご用命は
有限会社　鈴木倉庫
電話　0120ー34ー１１１８
ダスキンメリーメイド藤沢南店
電話　0120ー４６ー0770

総合アルミ建材
広瀬硝子建材株式会社
本社〒251ー0032藤沢市片瀬4ー14ー６
業務配送センター
〒251ー0032藤沢市片瀬2ー16ー29
電話　(0466)22ー６６０５
FAX（0466)23ー６９９４

住んでよし　心豊かな木の住まい
木材・新建材・住宅機器
合資会社　**佐々木材木店**
〒251-0052　藤沢市藤沢1丁目7ー18
電話（０４６６）２５－２５１１(代)
FAX（０４６６）２５－２５１５